

社会教育研修講座

学校・家庭・地域の連携をキーワードに、新たな枠組みの中で、担当者として、果たすべき役割と身につけるべき資質と実践力の向上を目的に行っております。

- (1) 目的 教育基本法の改正など、急激に変化する社会の変化に対応する社会教育事業の在り方について研修し、管内の社会教育関係者が今後目指すべき方向性について共有することを目的とする。
- (2) 主催 後志教育研修センター
- (3) 日時 平成20年6月20日(金)
- (4) 会場 後志教育研修センター
- (5) 参加対象 市町村社会教育主事、社会教育・文化・スポーツ担当職員、司書、学芸員、生涯学習推進アドバイザー他社会教育担当者、小中学校教職員
- (6) 参加人数 12名(社会教育担当者/11名 小中学校教職員/1名)
- (7) 日程

10:30 11:50 12:50 14:10 14:30 15:45

開講式	講義 「新しい時代を切り拓く社会教育」	昼食	実技・ワークショップ 「社会教育における地域課題解決の方策」	休憩	実技・ワークショップ 同左	閉講式
-----	------------------------	----	-----------------------------------	----	------------------	-----

※当日は講師の意向により、講義内容を実技に盛り込み実施した。

- (8) 内容 ①講義
演題「新しい時代を切り拓く社会教育」
講師 北海道立生涯学習推進センター管理部研修調査課
社会教育主事 田中 豊氏

・文部科学省の答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」にある「知の循環型社会」の「知の循環」とは、どのようなことか(どのような状態か)を東京都杉並区の「すぎなみ地域大学」の事例をもとに考えた。

- ②実技・ワークショップ
演題「社会教育における地域課題解決の方策」
講師 北海道立生涯学習推進センター管理部研修調査課
社会教育主事 田中 豊氏

・参加者が個々にイメージする「木」を用紙に描いた後、屋外に出て講師の指示通りに実際の樹木を細かく観察した。そして屋内に戻り2度目の「木」を描いた。
・2枚の「木」の絵を比較すると、明らかに観察後の絵の方が本来の木の特徴をとらえた絵となっている。
・さらに、この2度目に描く「木」がもっと大きな変化を遂げるための方策を考えた。
・今あるものを信じ、誰に、何を、どのように方法で伝えるかそこに私たちの仕事がある。

．．．．平成20年度後志管内社会教育主事等研修会より．．．．

研究協議『「社会の要請」に応えた、新たな枠組みによる事業展開を探る』

平成20年11月27日（木）仁木町民センター

〔 後志教育研修センター社会教育研究委員会
（後志社会教育主事会調査研究部） 〕

先に実施した「家庭教育に関するアンケート」の集計結果を基にして、数値上の傾向と、そこから読み取れる内容を考察し、今後の家庭教育支援に関する事業を展開するにあたってのプログラミング並びにアプローチへの参考資料とする。

- 13:00～13:15
 - ・ 調査研究事業の経過
- 13:15～13:30
 - ・ 家庭教育に関するアンケート集計結果をもとにした傾向分析の進め方
 - ・ シートの説明 など
- 13:30～13:50
 - ・ 集計結果に目を通し、設問ごと、また、設問をまたいで（例えば設問2と設問3を合わせて関連づける）、さらには全体を通しての傾向と、その傾向から何が考えられるか、何が読み取れるかを、ポストイットに自由に記述いただく。

傾向分析例

傾 向	左記の傾向から、何が考えられるか、何が読み取れるか
設問3「悩んでいること・困っていること」において、①子どもが言うことをきかないが突出している。	<ul style="list-style-type: none">・ 設問2「子育てをする上での心がけていること」では、①生活リズムの確立、⑤食事をしっかりとることは、必ずしも上位ではなく、基本的な生活習慣が身に付いていないために、こうした態度に表れているとも考えられるだろう。・ 同左設問3で、⑨子どもの気持ち、⑩子どもへの接し方が分からないとの回答から、単に親子のコミュニケーションが不足しているのではないか。

- 13:50～14:00（休憩）
- 14:00～14:40（各グループ）
 - ・ グループ内での傾向分析の交流
 - ・ 項目の分類分け
 - ・ シートの整理
- 14:40～15:00（各グループ）
 - ・ 整理したシートを用いて各グループからの報告